

## 「匿名基金 A」 選考結果について

### 1 応募状況

- (1) 募集期間 2020年12月9日(水)～2021年1月6日(水)
- (2) 募集対象 当団体オンライン寄付サイト「Give One (ギブワン)」登録の子ども支援団体のうち、コロナ禍で支援を必要とする子どもと家族に対して国内でサービスを提供している団体
- (3) 応募総数 34件

### 2 審査委員会

- (1) 開催日  
2021年1月18日(月)
- (2) 審査方法  
第三者の専門家による審査委員会を設置し、審査委員による下記の審査基準に基づく書類選考を行いました。
- (3) 審査委員

委員長	渡辺 元	公益財団法人助成財団センター・理事
委員	西田 治子	一般社団法人 Women Help Women・代表理事
委員	米田 佐知子	子どもの未来サポートオフィス・代表

(4) 審査基準

審査の視点
●団体の信頼性（応募要件をクリアしていること等）
●これまでの事業・活動の実績
●助成目的に合致（内容の適格性、独自性等）
●計画の妥当性・実現可能性（助成金の使途の適格性等）
●重要性（事態の深刻度・事業実施による効果の度合い）と緊急性（緊急に取り組む必要性）
●社会や地域への貢献
●新型コロナウイルス感染症予防のための対策（特に対面支援を伴う場合）

### 3 審査結果

審査委員会による厳正な審査の結果、34団体が助成対象先として選定されました。新型コロナ

感染症への新たな対応が求められるフェーズに入ったことから、希望する応募団体には助成額を増額することとし、増額希望の表明があった 26 団体と希望額を調整し、助成総額 4,500 万円を確定した。

#### 4 助成総額

45,000,000 円

#### 5 採択団体及び助成金額等

No.	団体名	地域	申請事業名	助成金額
1	IMADATE ART FIELD	福井県	越前和紙のワークショップー地域に根差した実践型芸術学習養成担い手づくり事業	¥1,280,000
2	認定 NPO 法人 発達わんぱく会	千葉県	保護者向けリモート支援事業	¥1,500,000
3	特定非営利活動法人 ぴいかあぶう	福島県	コロナに負けるな！安全な居場所づくりプロジェクト	¥1,500,000
4	特定非営利活動法人 子どもセンター「パオ」	愛知県	自立援助ホーム（ステップハウス）コロナ対策環境整備事業	¥1,300,460
5	NPO 法人 神戸定住外国人支援センター	兵庫県	コロナ禍で困窮している子どものいる留学生・移民家族の支援事業	¥1,300,000
6	特定非営利活動法人 ビーンズふくしま	福島県	地域に繋がりを創る子ども食堂事業	¥1,000,000
7	NPO 法人 リトルワンズ	東京都	支援過疎地に住む母子家庭の子供支援	¥1,500,000
8	NPO 法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	兵庫県	コロナ禍におけるひとり親家庭の子どもの学習支援	¥1,000,000
9	認定特定非営利活動法人 Teach For Japan	東京都	spark! プログラム(教員志望者らによる子どもたちの支援)	¥1,500,000
10	NPO 法人 楠の木学園	神奈川県	発達障害を有する若者のコロナ禍の下での学習支援事業	¥1,500,000
11	特定非営利活動法人 越谷らるご	埼玉県	フリースクールの子どもたちが安心して通い、オンライン活動になれるための活動	¥1,000,000
12	認定特定非営利活動法人 アレルギー支援ネットワーク	愛知県	アレルギー児とその家庭の支援活動の維持	¥1,500,000
13	特定非営利活動法人 長野サマライズ・センター	長野県	聴覚障害学生支援拡大のための環境づくり事業	¥1,500,000
14	NPO 法人 エッジ	東京都	相談とアセスメントで適切な学習支援を	¥1,000,000
15	認定 NPO 法人 PIECES	東京都	子どもの孤立を予防するための、市民によるアクション創出プロジェクト	¥1,500,000
16	NPO 法人 いるかねっと	福岡県	福岡市での困窮家庭への食品提供拠点事業	¥1,500,000
17	認定 NPO 法人 フードバンク山梨	山梨県	乳幼児応援プロジェクト	¥1,500,000
18	カパティラン	東京都	奨学金支援事業	¥1,200,000

19	NPO 法人 いわき放射能市民測定室（たらちね）	福島県	新型コロナウイルス感染拡大のダメージから遊びを通じて子どもの心を守る事業	¥1,500,000
20	NPO 法人 パノラマ	神奈川県	生活困窮世帯の生徒が多く通う高校内居場所カフェ	¥1,000,000
21	公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を	東京都	ターミナル期の病児の社会活動支援プロジェクト	¥1,500,000
22	特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN	大阪府	コロナ禍にオンラインの学びで子どもの安心・安全を“新たな当たり前”にする事業	¥1,500,000
23	認定 NPO 法人 CPAO	大阪府	CPAO Kitchen & Park（シーパオキッチン & パーク）	¥1,000,000
24	特定非営利活動法人 せんだいこども食堂	宮城県	ひとり親世帯食糧支援およびこどもたちの文通事業	¥1,303,839
25	NPO 法人 インフォメーションギャップバスター	神奈川県	子どもまたは親が聞こえない家庭への透明マスク配布事業	¥1,499,100
26	認定 NPO 法人 アトピッ子地球の子ネットワーク	東京都	小規模保育所サポートプロジェクト	¥1,500,000
27	NPO 法人 アクセプト・インターナショナル	東京都	コロナ禍における非行少年へのケアの実現	¥903,601
28	特定非営利活動法人 日本教育再興連盟	東京都	新型コロナウイルス流行によって減少してしまった体験活動の機会をオンラインで保障する事業	¥1,500,000
29	特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク	宮城県	子育て中の困窮家庭への物資と居場所の提供を通じたケア事業	¥913,000
30	公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン	東京都	2021 年度 新型コロナ影響下における生活困窮世帯の子ども教育格差解消事業	¥1,500,000
31	NPO 法人 ピルコン	東京都	若年世代に向けた SNS での性の健康啓発・メール相談事業	¥1,000,000
32	NPO 法人 みんなのことば	東京都	体験をあきらめない！子どもの心を育てる参加型コンサート	¥1,500,000
33	NPO 法人 棚田LOVER's	兵庫県	自然体験と子ども食堂を通じた子どもたちの学びや遊びの機会の提供事業	¥1,300,000
34	NPO 法人 ピアサポートネットしぶや	東京都	校内居場所とアウトリーチによる心のサポート	¥1,500,000

## 6 審査総評

別紙のとおり

以上

(別紙)

「匿名基金 A」の審査を終えて

2021年2月1日

審査委員長 渡辺 元

**●はじめに**

昨年1月に突然出現した新型コロナウイルス感染症は、その後急速に世界全体に拡大し、依然として収束の兆しを見せていない。2月1日現在、日本での感染者数は39万2475人、世界全体では1億人を突破し、その影響の深刻さが増しつつある。

このような“コロナ禍”の中、困難な状況に直面しながらも取り残され、声をあげられずに喘いでいる子どもたちを救いたいとの強い意志と想いを持った篤志家（寄付者）によって創設されたのが、本基金（匿名基金 A）である。ここでは、「コロナによる“光の当たらない被害者”の子どもたちを守る」をテーマに、コロナ禍で支援を必要とする子どもと家族に対して国内でサービスを提供している当財団オンライン寄付サイト「Give One」の登録団体を対象に、昨年12月9日～本年1月5日（その後6日まで延長）まで募集を行ったところ、34件の応募があった。応募団体の所在地は、東北から九州まで全国各地に及んでいる。

**●審査の視点**

本基金は、上述の通り、募集対象を「Give One（ギブワン）」に登録している子ども支援団体としており、団体の信頼性やこれまでの活動実績は登録時にすでに確認できているため、審査にあたっては、特に、「計画の妥当性・実現可能性（助成金の使途の適格性等）」「重要性（事態の深刻度・事業実施による効果の度合い）」と緊急性（緊急に取り組む必要性）」を重視することとした。各審査委員は、これらの視点から応募書類に記載された申請事業の内容に関する評価・審査に臨むこととなった。

**●審査の経過と結果**

応募終了後、直ちに私を含む3名の審査委員による個別評価（書類審査）が行われ、それらの結果を踏まて、審査委員と事務局でオンラインによる審査会を1月18日に開催した。審査会では、事務局のスクリーニングを通過した応募団体全34件について、審査委員3名の評価結果（採択可が30団体、採択に疑問が2件、保留が2件）を共有のうえ、特に申請事業の内容に疑問や懸念のある応募を中心に検討および協議を行った。検討に際しては、各委員の書類審査時のコメントを参考に、事務局が事前に応募団体にヒアリングした内容も参考にしながら慎重かつ丁寧な議論を展開した。そして、25団体については採択することとし、残り9団体については、応募内容に対する懸念点等を詳細に確認したうえで最終判断をすることとなった。審査会后、懸念点を指摘された応募団体には事務局より確認を取り、回答内容を審査委員と共有し、確認した結果、最終的に全34団体を採択することとした。

また、新型コロナウイルス感染症の急拡大とこれに伴う2度目の緊急事態宣言の発令により、新

たな対応が求められるフェーズに入ったことから、寄付者の意思も尊重し、助成金の増額に関する希望を応募団体に募った。その結果、26 団体より増額希望の表明があり、各団体と増額に伴う内容や用途内訳等の確認・調整を行い、助成総額 4,500 万円を確定した。

#### ●審査を終えて

本基金は、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、光の当たらない被害者として取り残されている子どもたちを救いたいという寄付者の熱意によって創設されたことを念頭に、まずは子どもたちに関わる緊急的なニーズに応えることを前提としつつも、助成を受けた当該団体およびその活動が、助成を機に、中長期的により良い方向に伸びていくことを期待する視点（例えば組織基盤の強化など）も併せて審査を行った。

今回のテーマに限らず、コロナ禍によって深刻さを増している社会的問題の多くは、すでにコロナ以前から指摘されてきたものである。コロナ後の社会におけるパラダイムの転換も想像の視野に入れ、「Build Back Better」（以前よりも良いものをつくる）、とりわけ子どもたちが安心して暮らせる未来を見通せる社会の実現に向けた一助となるための視点と発想が、助成をする側、受ける側双方に求められると考える。これからの皆様の取り組みに心から期待したい。

－以上－